

おばあちゃん みていてね 【高学年3 - (2)】

- 「心のノート」を活用した取組み -

- (1) 主題名 生命をつなぐ [3 - (2)] 関連項目 [4 - (5)]
- (2) ねらい 生命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重し、力強く生きぬこうとする心を育てる。
- (3) 資料名 「おばあちゃん みていてね」
- (4) 授業の展開例

	学習活動	主な発問と児童の心の動き	留意点
導入	1 動物の親子の写真を見る。	どう思いましたか。 ・かわいい。 ・おかあさんはとってもやさしそう。 ・親はいつも子どものそばにいる。 ・赤ちゃんが必死にえさを食べている。	動物の親子のふれあいが十分感じられるよう授乳の様子、えさを与えている様子の写真をとりあげる。
展	2 資料「おばあちゃん みていてね」を読んで話し合う。	病院へ急ぐ「わたし」は、どんな気持ちでしょう。 ・おばあちゃん、大丈夫かな。 ・がんばって。 ・死がないで。 「わたし」は、おばあちゃんに対してどんな思いをもっていたのだろう。 ・やさしい。 ・大好き。 ・はげましてくれる。	「わたし」の必死の思いがしっかり出るようにする。
開	3 「うん。」とつぶやいた「わたし」の気持ちを考える。	心の中で「うん。」とつぶやいた「わたし」はどんなことを考えたのでしょうか。 ・おばあちゃん、今までありがとう。 ・がんばるよ。みていてね。 ・おばあちゃんからもらった命だから大切にしていくよ。	あたたかく見守ってくれたおばあちゃんの気持ちについても触れるようにする。
	4 自分の生活を振り返る。	自分の今までを振り返ってみよう。 ・ピアノをがんばって上手にひけたとき、ほめてもらってうれしかった。 ・おとうさんに自転車の練習を手伝ってもらって、乗れるようになった。	考える時間を確保し、また、発表ではできるだけ多様な思いが出るようにし、その思いを共有できるようにする。
終末	5 これからの自分について考える。	これからの自分の生命について今思っていることを家族の人伝え手紙を書こう。 ・お母さん、おばあちゃんありがとう。 ・大切な命を大事にしてがんばるよ。	「心のノート」p 65 をあらかじめ記入させておき、発表の際に役立てる。見守り、支えてくれた親・祖父母に対しての感謝の気持ちについても考える。

お父さん葬式

「リーン、コーン。」

電話をとったお父さんの表情が「わざつました。

それは、病院からのものでした。

「すぐ」に病院に行ひ。

お父さんは「みんなに告げ、わたしたちはすぐ」に準備をして病院にむかひました。

病院に着くと、お母さんがこの病室には親せきの人たちがいました。

「お母さん、お母さん。」

おばあさんが一生懸命しておはあひやさんで呼びかけています。お父さんはまだまつておばあちゃんをみつめています。おばあちゃんの心臓の動きを示す数がどんどん下がってきました。一気に病室の雰囲気が緊張してきました。「お母さん…」「がんばって…」なみだ声だけが聞こえます。

しかし、みんなの願いもむなしく、つこて、おばあちゃんには息を引き取りました。わたしは悲しくてなみだがあふれてきました。

明日はお葬式。おまかせいやことお別れする日です。でも、おまかせいやんが亡くなつたことがまだ信じられません。

わたしが学校から帰つてくると、「おかえり。疲れた? よくがんばったね。」とやせこい声をかけてくれたおばあちゃん。
スポーツ大会の口ひぜ、「けがをしなじよ」がんばりつね。」と応援してくれたおばあちゃん。

また、病院で入院していたときに、病院の周りをおばあちゃんの乗つた車椅子をおしながらお花見をした時には、「まあ、きれにな」と。こんなふうにして本当に幸せよ。」とつれしそうな顔で喜んでくれたおばあちゃん。

じつと田を睇じるといおばあちゃんとの思い出が次から次こと浮かんできます。

そして、お葬式も終わり、また、いつもの食事の風景です。

でも、おばあちゃんの椅子にはだれもいません。おばあちゃんの机の上もポカソンとあります。わたしは、また悲しくなつて、なみだがでてきました。

「和子が、おばあちゃんのことを思い出して、なみだが出てくるのもよくわかるよ。」

と、お父さんはわたしを見て言いました。

「悲しいのは、お父さんと同じだよ。でもね、悲しんではかりいられない。お父さんが今ここにいるのも、おばあちゃんが生んで育つてくれたおかげなんだよ。おばあちゃんからもらつた大切な命。元気をだしてがんばつて生きていかなないとね。」

「そうね。おばあちゃんは、お星様になつてみんなをおひぐんでくれてこね。」

と、お母さんも言いました。

わたしは、心の中で（つづ。）とつぶやきました。

活用に生かすための実践報告

「おばあちゃん みでいてね」

1 主題の設定

かけがえのない生命。それは、遠い祖先から受け継いだものであり、未来の子孫へと受け渡すものである。しかし、近頃では、毎日のようにそのかけがえのない生命がおびやかされる事件が後をたたない。子どもたちの間でも簡単に死に関する言葉を口にしていることを見かけることもある。自分の生命は自分だけのものではなく、生まれてからずっと見守り、支えてくれている周りの人にとってもかけがえのない大切な命である。受け継いだ命を大切に、精一杯生きていくことを誓う心が自他の命を尊重することにもつながっていくと思い、この主題を設定した。この資料は、大好きなおばあちゃんの「死」という現実を見つめ、そこから「生」の尊さについて感じ取ることのできる話である。おばあちゃん、おとうさん、わたしと受け継いできた命を力強く生きていこうとする気持ちに共感させたい。

2 指導過程の工夫

導入では、動物の親子のほのぼのとした授乳の様子やえさを与えていたる様子の写真を提示し、生命あることのすばらしさ、親に見守られ安心している子どもの表情など楽しい雰囲気を作り上げ、資料へつなげたい。

題名を中心発問の後に提示し、本時のねらいを子どもたち自身に意識させるようにしてもよいと思う。

心のノートp 6 5は事前に記入し、それに対する家の人の思いを書いてもらっておくと効果的である。振り返りの発表にも生かせると思う。

家族の人への手紙は時間を十分確保し、教師が代読をし、最後に余韻をもたせたい。

3 発問の工夫

中心的な発問では、お父さんやお母さんの

言葉も板書に整理し、おばあちゃんからつながった「わたし」の命を大切にしていくとする気持ちの高まりを多様に引き出していきたい。

赤ちゃんの時から今までにがんばってできるようになったことを聞く発問では、周りの人の支えもあったことを思い起こさせたい。

4 児童の反応（家族の人への手紙から）

・わたしの命はずっとむかしから続いている命です。もし、お母さんが生まれていなかつたら、わたしは今いません。だから、わたしは、お母さんたちに感謝しています。いつまでも、自分の命を大切にし、生きていきたいです。

・おじいちゃん、おばあちゃん、いつもやさしくしてくれてありがとう。ずっと元気でいてね。おじいちゃんの子どもの子どもがぼくだから、本当にありがとうございます。ぼくも、命をつないでいきたいです。

・お母さん、わたしを産んでくれてありがとうございます。わたしは、この命を精一杯楽しんでいきたいです。今ごろ子どもを殺したり、連れ去ったりした人は相手の人のことを考えないひどい人だと思います。わたしは、自分や他の人の命も大切にする大人になります。

5 実践者からの一言

生命の大切さを頭ではわかっている子どもたちにとって、この資料は生命を「つながり」という視点で新たに考えることができたようだ。生命の連續性は、他教科でも扱われているので関連をもたせていくと、もっと深めていくと思う。

連日のように報道される命をないがしろにする事件を子どもたちは敏感に感じている。現実のきびしさと向き合う一方、日々生命尊重の精神を子どもたちとともに考えていくことも大切なことであると考える。

（温品小学校 原 義喜）